

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602496		
法人名	有限会社 モク・コーポレーション		
事業所名	グループホーム 銀の庵		
所在地	〒830-1122 福岡県久留米市北野町今山1104番地1 0942-78-0378		
自己評価作成日	平成24年09月23日	評価結果確定日	平成24年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は久留米市中心部から近距離の北野町にあり、1ユニット9名の入所者がゆったりとした時間の中で生活しておられます。自然も多く、水田や畑に囲まれた静か他住宅地の一角です。近隣の方々との交流もあり、散歩の折には庭の花々を一緒に眺めたり、会話を楽しくだりしています。また、ホームにも近所のお年寄りの方が遊びに来られ、おやつを食べたり昔はなしで盛り上がることもあります。食事には特に気を配っており、なるべく安全で添加物の少ない食品、旬の食材や地元の野菜等を多く使い、手作りを基本としています。ご家族様との交流を大事に考えて、一緒過ごしていただくようにし、またスタッフも交えての情報交換をするように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米市郊外の、コスモス街道が続く田園に囲まれた住宅街の一角に、民家改造型1ユニットのグループホーム「銀の庵」がある。利用者職員は、自然が残る玄関前の小川や、庭に咲いた花や果物を、観察しながら四季を五感で感じ、生きがいのある暮らしに結び付けている。「地域の中で、利用者一人ひとりが、自由でのびのびと暮らせる支援をしていく」という、ホーム独自の理念を掲げ、自治会に加入し、地域行事に参加したり、ホーム行事に、家族や地域の方が参加する等、交流の輪が広がっている。職員は、利用者に寄り添い、生活リハビリを中心に、身体機能維持を目指し、協力医療機関の往診や、訪問看護による医療連携の確立と、新鮮な食材を使った美味しい料理をたくさん食べて、利用者の明るい笑顔に結びつき、家族からの信頼は深いものがある「銀の庵」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年10月16日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした福祉づくり、その人らしく生きていく為の支援などを理念にあげ、本人の希望になるべく添うようにサービスに務めている	職員が話し合い、「地域との連携を図りながら、利用者の自立を目指し、その人らしい豊かな暮らしを支える支援」を理念に掲げ、各所に掲示し共有し、利用者一人ひとりの立場に立った介護サービスの提供に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に出来るだけ参加し、顔見知りの関係をつくるよう心がけている。散歩中の挨拶、声かけは当然ながら、花や野菜等を分け合ったり、手作りのおやつを持って行ったりと親しくお付き合いしている	自治会に加入し、地域の草取り、公民館掃除等、積極的に参加している。また、散歩時の挨拶や近所の方が遊びに立ち寄り、日常的な交流がある。管理者、職員は、日頃、地域に助けてもらっている為、出来る事として散歩途中のゴミ拾い等を検討し、地域の一人として交流を目指し、地道な活動が始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、自治会行事参加時などに相談を受けたり、認知症について話をしたり、支援方法をアドバイスしたりしている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の方々の身体状況や行事説明などの他に、スタッフ会議の内容について説明を行ったりしている。入居者と方々々と直接話しをしていただいたり、してグループホームへの理解を深めていただいている。会議の内容は職員会議で報告しサービスの向上に活かしている	会議は、定期的に2ヶ月毎、家族代表、地域代表、民生委員、行政、地域包括支援センター職員の参加で実施されている。ホームの状況、行事やヒヤリハット、事故報告等行い、参加者から質問やアドバイス等活発に出され、充実した会議となっている。参加委員からの情報、意見を活かし、出来るだけホーム運営に反映出来るよう取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議、講習会には出来るだけ出席するようにし、他事業所の事例、新しい情報を知りサービスの質の向上に役立てている	行政主催の会議や研修会に参加し、情報交換をしている。また、運営推進会議に行政や地域包括支援センター職員が参加し、ホームの状況を理解してもらい、連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を行っており職員全体で理解できるよう取り組んでいる。玄関は基本的に鍵をかけないようにしているが、入浴、排泄時に職員が2人がかりで介助する場合等人手の足りない時はやむを得ず一時的に玄関に施錠する場合もある	身体拘束廃止マニュアルを整備し、研修を通じて拘束が利用者にとどのような影響を与えるか、職員間で話し合い、身体拘束をしないための介護の在り方を、検討している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての学習会を行っており職員同士で協力し合い虐待の無いように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	年に1回学習会を行っている。必要性があると考えられる場合すぐに活用できるように、パンフレット資料等をそろえている。また、入居の際にはご説明し資料をお渡ししている	現在1名の方が制度の申請中である。制度についての資料やパンフレットを準備し、学習会で制度を理解し、利用者や家族が必要とした時に、説明や情報提供が出来る支援が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご利用者様、ご家族様に契約書、重要事項説明書を読み上げ説明を行っている。その際質問、疑問点があれば説明を行ない理解、納得を得ている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方と職員は日頃から親しく話し合える関係にあり、ご自分の希望をはっきりと伝えている。ご家族、ご親戚等の訪問時には必ず職員が話を聞くようにしておりご不満、希望があれば検討し対応するようにしている	職員は利用者に寄り添い、会話の中から希望を聞き取る努力をしている。また、家族の面会は多く、職員は出来るだけ家族と話す機会を持ち、家族の意向や希望を聞き取っている。管理者、職員は、家族の要望を聴く機会として、ホーム行事を兼ねた交流会を検討している。	利用者の日常の暮らしぶりや健康状態を、全家族に平等に伝えるために、ホーム便りを作成したり、行事を兼ねた家族交流会を立ち上げ、家族と今以上の信頼関係を築き、意見や要望が出しやすい環境作りが望まれる。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の際に意見を聞く時間をとっている。日頃から職員の意見や提案を聞けるように心がけている	職員会議を毎月定期開催し、カンファレンスやモニタリングを兼ねた会議の中で、職員が意見を言いやすい雰囲気作りを心がけ、担当制にした事で、職員一人ひとりが責任を持って活発に発言している。出された意見を職員全員で検討し、介護サービスの提供と、ホーム運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設以来、給与基準を定め、人事管理を行ってきた。処遇改善加算についても活用していく		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては何の制限も設けていない。20代～60才代(男性3名含む)の年齢層で、それぞれの希望や個性にあわせ勤務体制を組んでいる。休みも希望にあわせ取れるようにしている	職員の採用は、経験や資格、年齢や性別等の制限はなく、人柄や介護に対する考え方等で採用している。また、幅広い年齢層の職員一人ひとりが、料理やおやつ作り、ホーム内の環境作り等、特技を活かしながら生き生きと働ける職場環境を目指し、希望休や勤務体制にも配慮がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部学習会を開いたり、日々のケア中でも互いに言葉遣いや、ケア内容について注意しあったり話し合ったりしている	人権学習会を開催し、職員間で利用者の人権を守るためにはどのように介護サービスを実践していくか検討し、日々の暮らしの中で、気づきを伝え合いながら、利用者の人権を守るための取り組みが進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に2回以上の研修レポートを義務付け各種の講演会や学習会の参加を呼びかけている。研修会等に参加した者は会議の場で研修内容を発表し、皆で検討し、ケアに活かせるようにしている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に所属し、そこでの勉強会などに参加したり、他事業所の話、事例を参考にしに向上に努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、困っていること要望等をお聞きしながら、信頼関係が築けるよう努めている。コミュニケーションを絶えずとるようにし、小さなサインも見逃さないように努力している		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪された折にはゆっくり話をする機会を作るようにしている。その際、困り事、不安、要望をお聞きするようにしている。電話での相談も受けている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけてなるべく詳しく話を聞き本人にとって最適な支援は何かを見極め、出来るだけ家族や本人の希望に添うよう支援している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食器の片付けや洗濯物を干したりたたんだりする際、楽しみながら一緒にするようにしている。「ありがとうございます」や「助かります」と感謝の気持ちを表し人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接している		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の都合のいい時間に訪問していただき、お部屋、リビングで一緒に過ごしていただいている。その際、職員が日頃の様子、会話の内容をお伝えし、情報を共有するようにしている。本人の状態の変化があった場合などは相談に乗っていただいで今後の方針を考えていくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから季節のお便りを出したり、来訪された折には、一緒に過ごしていただくようにしている。機会があれば馴染みの場所にお連れしたりしている。電話、手紙のやり取りをされている方もいる	友人、知人の来訪も多く、アルバムを一緒に見ながらお茶を飲んで過ごされる等、馴染みの関係を大切にしている。また、職員は利用者との会話の中から「生まれ育った所へ行ってみたい」等の思いを聴きだし、家族に相談しながら実現に向けて努力をしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合って洗濯物を干したりたんだり食事の準備や下ごしらえをお手伝いしていただいている。視力の弱い方に「危ないよ」と声をかけられたり、食事中にお皿を渡してあげたり、時にはスプーンで介助して下さったりしている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退所されたご家族、ご本人からの相談があった場合には応じるようにしている。長期入院のために退所となった方は時々お見舞いに行っている		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのかわりから個々の特徴、生活をとらえ希望、思いを把握するようにしている。言葉数の少ない方は表情や態度から汲み取るようにしている	職員は、アセスメントや利用者、家族、友人への聴き取りで、利用者の生活歴や意向を把握し、全員で共有している。意向表出の困難な利用者に対しては、家族に相談したり、過去の記録を読み返し、出来るだけ本人本位の意向を尊重し、実現するための努力がされている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で昔話をしたりご家族からお話していただいたりしている。ご親戚、ご友人が訪問されたときにも聞き取りをし役立てている。入所前のサービス利用時の情報も事業所から頂くようにしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に、身体状況、精神面、活動したことを記載するようにしている。全職員が記録に目を通し情報を共有するようにしている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、意向を確認し、主治医とも相談して作成している。また、希望、意向を直接表現できない方もおられるため、表情や態度から汲み取るようにし職員全体で本人のニーズが何か話し合いながら作成している	介護計画は、利用者や家族の希望を聞きながら、主治医や関係者と話し合い、毎月評価を行い、3ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があった場合には、家族、主治医と連絡を取りながら、その都度介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に身体状況や日々の様子、食事、水分量、運動量、会話した内容なども記録し全職員が目を通すようにしている。変化があった場合には話し合いを行い見直しに活かせるようにしている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望には出来るだけ添えるよう努力している。入院された場合も家族に代わって見舞い、洗濯物を取りに行ったり、遠くのご親戚が訪問された場合に宿泊していただいたりしている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、ご友人の他に民生委員やボランティア、ご近所の方が訪れて交流している。以前ご利用されていた施設の方が訪問されたりしている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望される医療機関を受診している。状態に変化があった場合などは電話での問い合わせ、往診をお願いしている	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。協力医療機関による2週間毎の往診と毎週行われる訪問看護により、安心して適切な医療が受けられる支援体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を看護師に報告している。変化があった場合にもすぐに看護師に報告し、必要があれば主治医に連絡を取り、適切な受診、看護が受けられるよう支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員が付き添って必要な情報提供を行うようにし、早期に退院できるように医師、看護師と情報交換している。退院に向けての受け入れ態勢も整えるようにしている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される時点で、ご本人、ご家族の意向をお聞きするようになっている。訪問された時や機会あるごとに話し合いを行うようにしており、状態の変化があった場合は主治医も交えて今後の方針を考えていけるように支援している	看取りの指針を作成し、利用者の重度化に向けた支援体制を確立している。重度化に伴い、利用者、家族と何度も話し合い、意向を確認し、出来るだけ希望を尊重出来るよう、看取りや重度化に関する勉強会で職員のスキルアップを図り、家族と主治医と連携し、方針を共有し、利用者が安心して暮らせる重度化に向けた体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開いて応急手当の方法、事故対応の方法を学んでいる		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。地域の方々には運営推進会議等で機会あるごとに、災害時の協力をお願いしている	年2回、消防署の協力や自主防災組織で、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、災害時の地域への協力要請や、非常食や非常用備品、持ち出しやすい軽量の飲料水の確保等、非常災害時に備えた体制を確立している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに丁寧な言葉遣いで尊厳を傷つけないように配慮している	職員は利用者に対して、人生の先輩であり、家族のような存在として大切に思い、丁寧な声かけや、さりげない見守り等、プライバシーや羞恥心に配慮したケアを実践している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を表せるように、簡単な言葉や方言でお聞きしたり、お話かけをし、ご本人が決定しやすいように工夫しお尋ねしたりしている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望、体調や状況に合わせて、起床、就寝、食事の時間なども変えている。外出やレクリエーションも無理強いせず、希望にそって行っている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内に化粧品をそろえている。お好きな時間に化粧できるよう支援を行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族から好き嫌いをお聞きし、ご本人にも何が食べたいかをよく聞いている。出来る範囲で食事の準備、片付けも手伝っていただくようにしている	調理上手な職員が作る美味しい食事は、色合い、形、味付け等絶品で、利用者の食欲増進に繋がっている。また、この日は利用者がテーブルを囲んでもやしの根取りをし、カレー作りに取り組む生き生きとした姿が見られた。調理された美味しい食事を、テーブルを囲んで利用者と職員が会話しながら楽しそうに食べている風景は、家庭的で微笑ましいものがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	太りすぎ、やせすぎのないように食量、内容、水分量に気を配っている。個人に合わせ、主食の量、糖分の量を調整し、きざみ、とろみ食などそれぞれに合わせている。水分量の取れない方には、果物、ゼリーを多めに召し上がっていただくようにしている		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る範囲で毎食後に歯磨きやうがいを行っている義歯を使っている方は夜間は必ずしてもらい消毒をしている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排尿記録をつけ失敗のないようにトイレ誘導、介助を行っている。訴えのある方はその都度、訴えない方は時間でトイレまで誘導するようにしている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を心がけているが、利用者のその日の状態に合わせて、無理強いせず利用者のその時の意志を尊重するようにしている。また、おむつの当て方やパットの使い方等研究し、出来るだけ出費を抑える努力をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について勉強会を行っている。食事に野菜、芋類を多くして、自家製ヨーグルトをおやつに食べていただくようにしている。排便記録をつけ個々に排便周期を把握し、水分補給をおこなっている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は基本的に決めているが、毎日入浴される方や、2～3日に1回の方、起床時すぐ入浴など様々で、本人の希望や、体調に合わせて入浴できるよう支援している	入浴は、曜日を決めて入っているが、利用者の健康状態やその日の気分に合わせ、出来るだけ希望に合わせた支援をし、入浴が楽しくなるような工夫を実践している。また、入浴嫌いな利用者には、職員間で話し合い、入浴が好きになられる支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に、家での生活習慣にあわせて、洋室、和室を選んでいただき、ベッド又は布団で寝ていただいている。就寝時間も今までの習慣や希望に合わせている。寝つきの悪いかたは職員が添寝したり、音楽をかけたりするなど工夫をしている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬入れを作っており、説明書き、処方箋を貼って、服薬状況用法、容量を確認できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭に出てホーム内の花を活けかえたり、散歩、音楽や歌を楽しまれたり、新聞を読むことを日課にされている方など本人の希望や趣味を活かして過ごしていただいている。掃除や食事の準備後片付け、洗濯物を干す、たたむなど出来るだけ一緒に行うようにしている		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には希望があればいつでも外出できるように支援している。	玄関を一步出ると、コスモス等季節の花が咲き揃い、敷地の中には、イチジク、金柑、枇杷の木が実をつけ、四季を五感で感じ取る事が出来る環境である。日常的な散歩、ドライブ、外食、買い物、同一法人特養行事に出かける等、積極的に外出の支援を行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にご自分でお金を払っていただいたり、支払しやすいように、財布を開ける介助をしたりしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある場合は自宅、友人宅に電話したり、こちらから連絡してお電話していただいたりしている。賀状、季節の便りが来たときは返事を出せるように支援している		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を、玄関や居間にいけるようにしており、季節感のある物を皆で作って飾るようにしている	民家を改造した家庭的な温かい雰囲気のグループホームである。玄関には季節の花が生けられ、調度品や季節感溢れる装飾で、そこに暮らす人、訪れる人がほっとする落ち着いた環境である。利用者はリビングのソファ等でゆっくり過ごしているが、リビングに続く和室の空間を用意し、一人ひとりの居場所の確保への配慮も見られ、居心地の良い共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士で横に並んで座られたり、一人静かにしたい方には居間に続く和室で過ごしていただいたり、自室で過ごせるよう工夫している		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に洋室、和室を選んでいただいております。使い慣れたタンス類、人形、嫁入り道具、お位牌なども持ってきていただいております	居室は、利用者や家族の希望を優先し、馴染みの家具や仏壇、家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、自宅のような雰囲気で、利用者が穏やかに寛げる居心地の良い居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれのわかる力に合わせ名札や人形を下げたりして目印にしている。手すりに添って自室から、居間、玄関、トイレ、浴室等に行けるようにしている		